

(社)日本造園学会 九州沖縄ランドスケープ遺産インベントリーづくり検討委員会

議事要旨

日時：2011年10月18日 13:30～17:00

場所：九州大学大橋サテライト1F

出席者：検討委員 — 杉本、堤、薛、永松、西田、徳永、井村、藤田、
支部長 — 矢幡、
支部事務局 — 朝廣

【座長等の選出・議事の公開】

委員会規約に基づき、杉本座長が選出され、岡本副座長、コアチーム4名（徳永、藤田、井村、田代）が指名された。また、本日の委員会も含めて、議事要旨を公開することを確認した。

1. 造園学会九州支部ランドスケープ遺産検討準備会(H23/4/23)と鹿児島大会ワークショップ(5/7)の概要説明

これまでの取り組み経緯として、H23/4/25に開催されたランドスケープ遺産検討準備会、5/7に開催された鹿児島大会でのワークショップについて、概要報告があった。

2. 九州・沖縄のランドスケープ遺産(造園遺産)応募物件一覧の紹介

これまで寄せられた168件の造園遺産の応募物件について、推薦者評価とコアチームによる仮評価作業、文化財の指定状況との関係等について紹介され、以下の意見が出された。

- 仮評価は、コアチームメンバーが紙資料を元に検討したもので、現場に足を運んでいない物件を、写真だけで判断するのは困難であった。
- 最終判断の際には、現場を見て決めるというプロセスを踏むのが望ましい。
- 県造協で募集を呼びかけたので、10月末までに増える可能性が有る。
- 他県の状況を知ることによって、応募物件が増える可能性がある。このため、寄せられた情報をHP上で公開し、追加物件を求めていく必要がある。
- 九州沖縄全体で、中立的にバランスを見つつ、漏れが無いかチェックする人が必要ではないか。横断的に把握できる人間を分野ごとに設置してはどうか。

3. 目的の確認と遺産の定義について

- 当委員会設置要綱の目的には、「造園技術によって形成された優れたランドスケープ空間」とあるが、本取り組みの「目的」において「造園技術」をどう位置づけるのか。
- また、「優れた」ランドスケープとあるが、なぜ優れているのか、どう評価したのか、といった説明が必要である。
- 案件の募集時点では、対象年代は追って検討することとしていたが、「遺産」という名称を使うには、対象年代を設定することも必要ではないか。
- 事務局案では「50年」を目安にする考えが示されているが、「確実に後世に残すべき遺産」として50年にこだわらない方が良いのでは。例えばアクロス福岡は50年経過していないが、後世に残したい技術であり、この場合年代ではなく技術にこだわりたい。
- 学会誌のランドスケープ遺産インベントリーの特集号では、「未来に向けて残したいものが遺産である」との考えを示す人がおり、一方で、遺産かどうかは「ランドスケープの専門家が決めるしか

ない」という人もいる。

- 古い遺産と近代遺産とに分けるという考え方もあるのではないか。
- 年代や定義については、九州は九州独自で設定したほうがよいのではないか。

4. 部門の設定と作業の進め方について

- 多様な応募案件を部門別に分け、委員とコアチームで担当を決め、部門毎に検討を進めてはどうか。
- どの部門に属するかが微妙な物件があるため、各部門の担当で適宜調整して決めてはどうか。
- 各部門の担当委員・コアメンバーは次の通り決定
「庭園部門」→永松・西田・徳永、
「公園部門」→岡本・杉本・田代、
「古墳・城址等、住宅・まちなみ・並木道、社寺林部門」→大原・薛・井村
「風景遺産部門」→堤・包清・藤田

5. 評価の進め方について

- これまでは、評価の手がかりとして5つの視点を設けた。
- 評価基準については、他支部での取り組みでも明示されていない。
- 今回の取り組みでは、見過ごされがちな物件を拾い上げられるような結果になればよいと思う
- 担当委員推薦枠を設けて、全県を横断的に判断して推薦してはどうか。
- 絞り込み方や、評価の基準を検討する必要があり、部門毎での検討が必要である。
- 毎年1件選定するというやり方もあるが。
- 毎年、ゼロの状態から応募してもらうのは大変である。
- 今回の応募物件を見ると、遺産と判断するには追加の情報が必要な物件があり、保留としておいて、情報が集まった段階で判断していくといった方法になるのではないか。
- 現地調査をするにも、費用や作業量を考慮する必要がある。
- 遺産の定義、年数の問題、スケールの問題等について、本日結論は出ていない。各部門において検討することとし、遺産・遺産候補をどう選ぶかについては、次回検討することとする。
- 全体の仕組みを公表したほうがよい。宮崎大会に向けてのスケジュールなども。

6. 本部における造園遺産の取り組みについて

- 11月の全国大会で会議が開催される。九州支部として以下の点を質問・確認する。
- 現地調査に要するような予算が確保できるのか、いつまでに結論を出すのか
 - アウトプットを、学会としていつ・どのように行うのか、取りまとめて書籍化するのか等々

7. 今後について

- 次回会議(2月)に向けて、各部門の担当委員+コアメンバーで作業を進める。
- HPに情報を公開する。10月末時でのHPアップ情報は次のとおり
 - ・ 全ての応募案件について、地名・名称・部門を明示。
 - ・ 「あくまでも応募物件であり今後検討していく」旨を但し書きとする。
 - ・ 次回の区切りは1月末である旨記載する。
- 選定されて嬉しいという価値付け、地域にとってインセンティブになるものであることを目指す。
- 継続的なチェック体制の必要性。第3回会議での議論として扱う。

(以上)